

★2023年より9月号を創刊します★

9月号では施設入込状況と、富士河口湖町観光実態調査からわかる町の観光トピックをお知らせします。

2023年1月～2023年6月の観光動向

- ・町内の施設入込客数は前年同時期と比べて2倍以上に。特に、河口湖北エリア及び西湖エリアは前年と比べて大幅に増加。

●施設入込客の動向

- ・2023年1月から2023年6月の施設入込調査データを集計すると、延べ149万人の旅行者が富士河口湖町の観光施設を訪れていることがわかります（表1）。エリア別にみると、河口湖北エリアが62.9万人と最も多く、次いで西湖エリアが29.6万人でした。また、河口湖南エリア（29.2万人）、富士山エリア（25.3万人）が続き、精進湖・本栖湖エリアへの入込客数は2.0万人でした。
- ・エリア別の施設入込客数の対前年比で見ると、全体では233.8%と大幅に増加し、特に、河口湖北エリア（355.4%）と西湖エリア（272.1%）の増加率が目立ちます。一方、精進湖・本栖湖エリアは92.1%と微減でした（表1）。
- ・月別の施設入込客数の全体的な傾向をみると、特に4月と5月、6月は前年と比べて3倍の入込であることが分かります。2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、政府から外出自粛や三密回避等が求められなくなりました。このことが大幅な観光需要の増加につながったものと考えられます。
- ・エリア別のシェアをみると、2023年は河口湖北エリアがもっとも高く、4割前後を記録しています。厳冬期の1月と2月は南北合わせた河口湖エリアの来訪が7割前後と集中する一方、4月以降春を迎える頃には西湖および精進湖・本栖湖エリアのシェアが2割を超える程度に高まることが分かります（図1）。
- ・この集計にはイベントの入込客数は含まれていませんのでご注意ください。

表1 エリア別施設入込客数（延べ人数）

単位：千人

	河口湖北	河口湖南	富士山	西湖	精進湖・ 本栖湖	エリア計
1月	75.0	34.8	19.2	25.8	1.0	155.8
2月	71.4	31.1	19.2	25.3	0.6	147.7
3月	112.9	54.1	51.8	42.9	3.0	264.7
4月	122.9	55.1	58.7	57.6	5.0	299.3
5月	116.7	67.2	56.7	81.7	6.3	328.7
6月	131.0	50.1	47.7	63.1	4.3	296.3
2023年計	629.9	292.5	253.3	296.4	20.2	1492.4
2022年計	177.2	170.2	160.0	109.0	21.9	638.3
対前年比	355.4%	171.9%	158.4%	272.1%	92.1%	233.8%

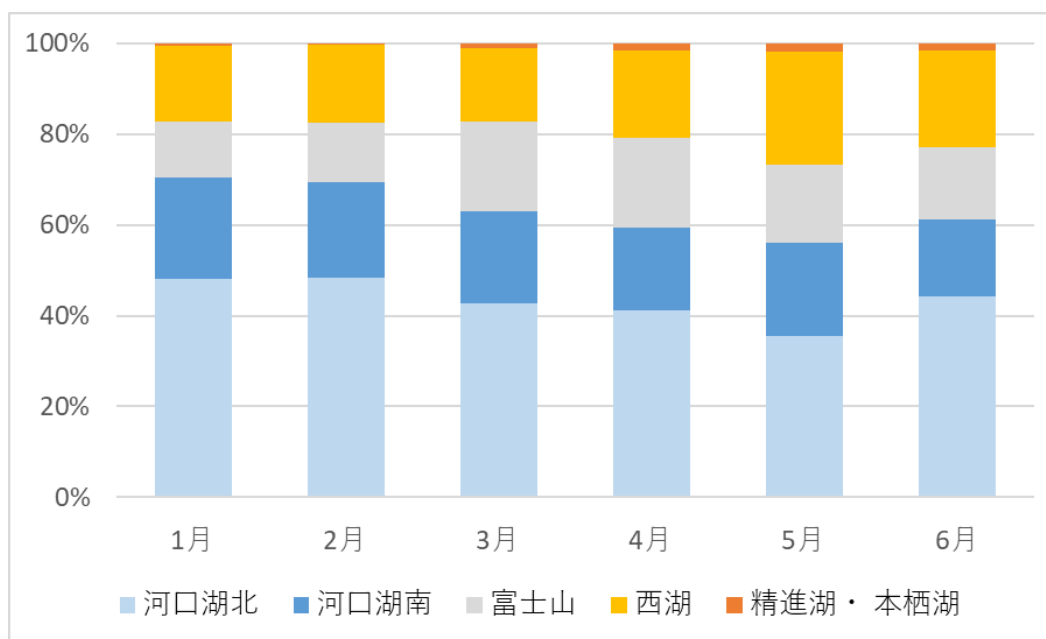


図1 エリア別施設入込客の割合

●富士河口湖町観光実態調査からみるコロナ禍前後の観光動向

- ・当町では毎年7月と11月の休日に観光実態調査（奇数年は観光ニーズ調査、偶数年は観光消費調査を併せて実施）をおこなっています。調査からわかる富士河口湖町の観光動向をお知らせします。今号は初回のため、基本的な観光客の属性や行動をみてみましょう。
- ・ひとつの着眼点として、コロナ禍前後で観光客の意識や行動がどのように変化したかに興味を持たれる方が多いと思います。今号では、参考として最新の2023年夏季調査と2018年夏季調査の比較を示します。ただし、これらはいくまでも観光の一時点を切り取ったものにすぎないため、厳密に変化を描写したことにはなりません。今後コロナ禍後の調査データを蓄積し、コロナ禍前の蓄積されたデータと比較することで変化を考察することが可能になります。その点にご注意いただきながら参照ください。

<調査概要（2023年夏季調査版）>

- ・調査日時：2023年7月1日（土）13:00～15:30、7月2日（日）9:30～12:00
- ・調査項目：性別、年代、居住地、同行者、同行者数、旅行目的、来町回数、前回の来訪時期、滞在期間、交通手段、立ち寄り地点、来訪前後イメージ、満足度、再訪意向、利用した情報、欲しい情報、自由回答
- ・調査員：18名（東洋大学国際観光学部生他）
- ・調査地点：河口湖駅、大石公園、富士山パノラマロープウェイ、音楽と森の美術館、道の駅かつやま、ハーブ館、本栖湖畔、世界遺産センター、西湖いやしの里根場、西湖ネイチャーセンター、富岳風穴
- ・回収数：国内旅行者201票、国外旅行者99票、不明10票

<調査概要（2018年夏季調査版）>

- ・調査日時：2018年7月14日（土）10:30～15:30
- ・調査項目：性別、年代、居住地、同行者、同行者数、旅行目的、来町回数、前回の来訪時期、滞在期間、宿泊施設タイプ、交通手段、立ち寄り地点、町内の観光支出、自由回答
- ・調査員：21名（東海大学観光学部生他）
- ・調査地点：河口湖駅、大石公園、富士山パノラマロープウェイ、オルゴールの森、道の駅かつやま、ハーブ館、本栖湖畔、世界遺産センター、西湖いやしの里根場、富岳風穴
- ・回収数：国内旅行者143票、国外旅行者82票

■年代

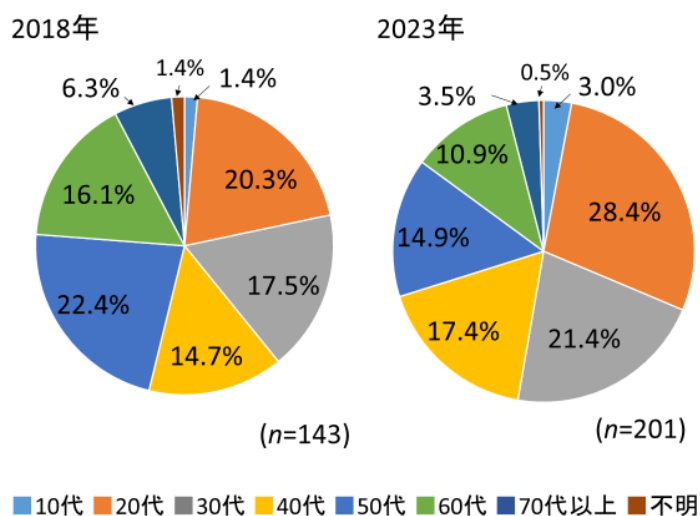


図2 国内観光客の年代

・国内観光客の年代をみると、2023年はコロナ禍前の2018年と比較して20代（28.4%）と30代（21.4%）の若年層の割合が高い傾向がみられます（図2）。

■同行者

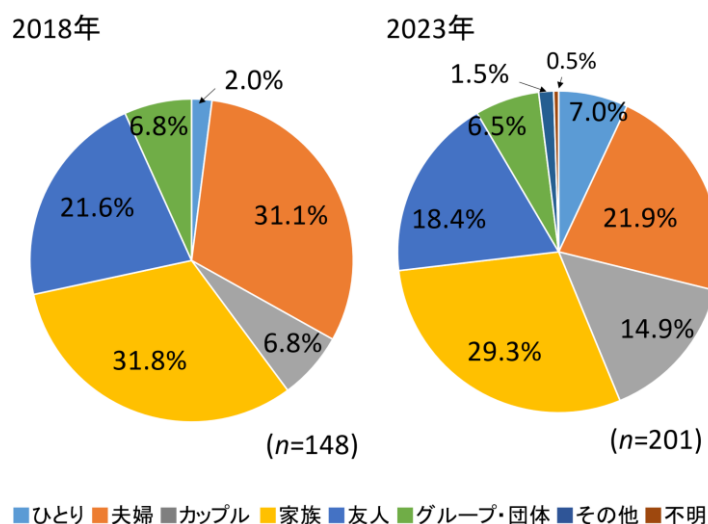


図3 国内観光客の同行者（複数回答）

・同行者については2018年、2023年ともに家族（32%（2018）、29%（2023））や夫婦（31%（2018）、22%（2023））が多い一方で、2023年はひとりの観光客の割合（2%（2018）、7%（2023））が微増しました（図3）。

■来町回数

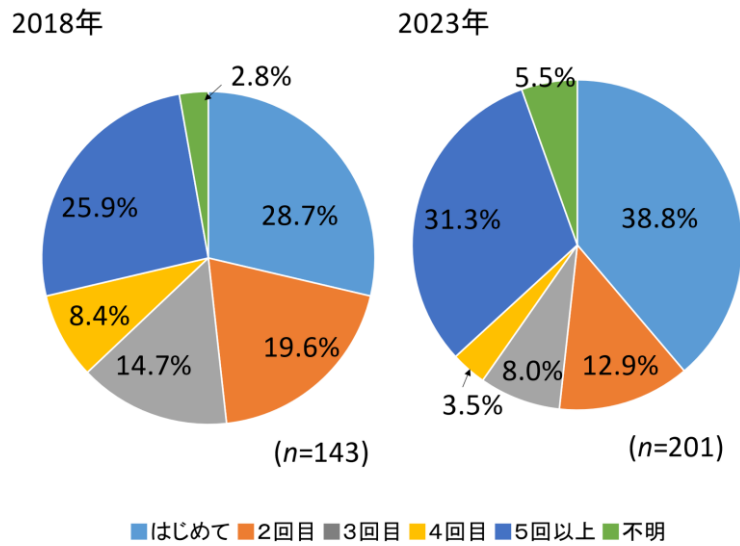


図 4 国内観光客の来町回数

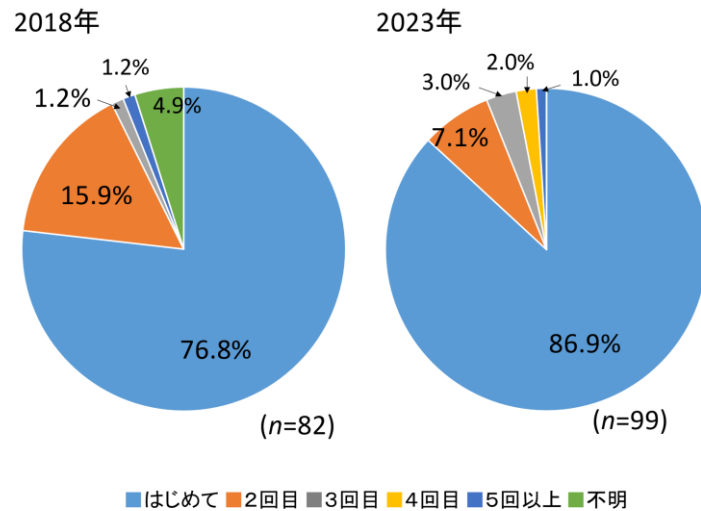


図 5 国外観光客の来町回数

- ・富士河口湖町を訪れる観光客は、国内観光客の3割から4割が初めて訪れており、国外観光客は8割程度が初来訪であることがわかります(図4, 図5)。国内、国外ともに2023年の初来訪割合が高くなっていますが、その確からしさや理由は現時点では分からず、今後の追加情報と分析が必要です。

■町内滞在期間

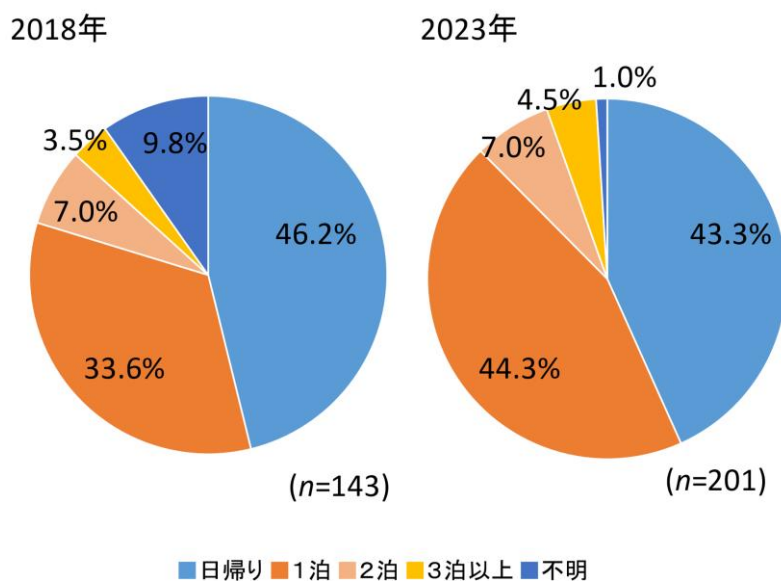


図6 国内観光客の滞在期間

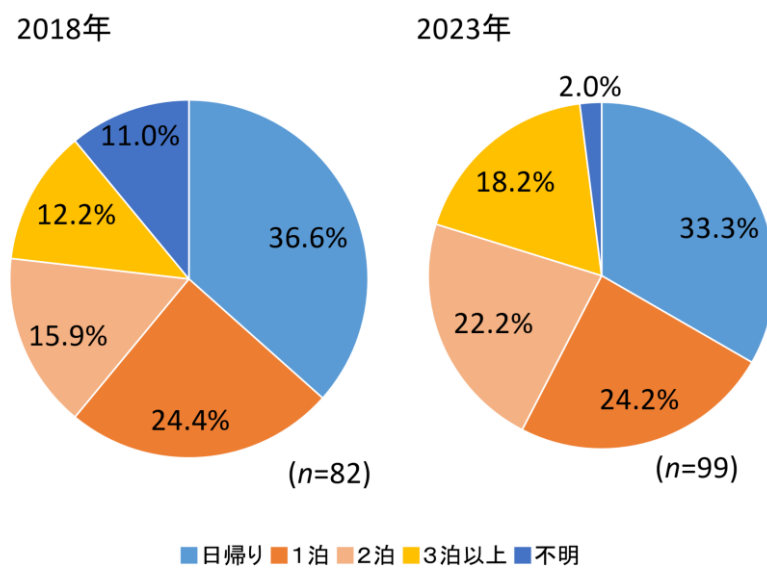


図7 国外観光客の滞在期間

- 町内の滞在期間をみると、国内観光客は4割強が日帰り旅行で、国外観光客でも3割を超える人が宿泊を伴わない滞在となっています（図6, 図7）。富士河口湖町には新宿から高速バスを使って約2時間とアクセスが良く、首都圏発着の日帰り旅行が可能な観光地といえます。

各種統計の調査方法

○施設入込客

- ・ 町内の主な観光施設の来客数を図 8 に示すエリアごとに集計したものです。エリア別の施設数は、河口湖北エリアが 10、河口湖南エリア 7、富士山エリア 6、西湖エリア 7、精進湖・本栖湖エリア 5 となっています。
- ・ 入込客数の計上方法は施設ごとに異なりますが、有料の施設であれば入場チケットの枚数、無料の施設であれば売店の売り上げから推計する等で集計しています。
- ・ イベントの入込客数は別途集計していますが、エリア別の集計にはイベント来場者数は反映されていません。

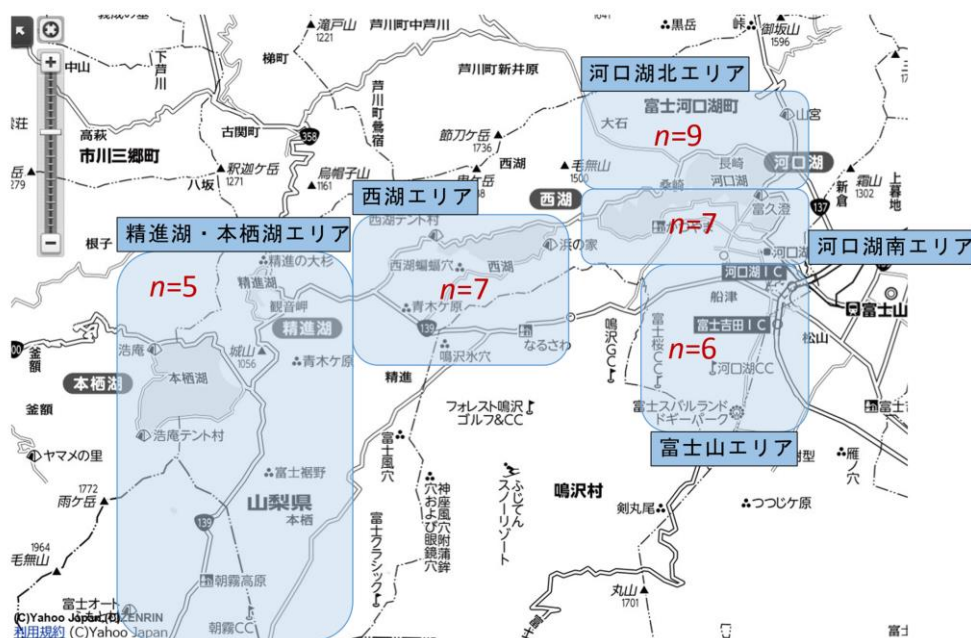


図 8 施設入込調査のエリア（各エリア内の n は調査対象施設数を表す）

○富士河口湖町観光実態調査

- ・ 毎年 7 月と 11 月の休日に、富士河口湖町を訪れる国内外の観光客を対象とした観光実態調査を行っています。実態調査に加え、奇数年は観光ニーズ調査、偶数年は観光消費調査を並行して実施しています。
- ・ 調査地点は河口湖駅や大石公園をはじめ、上記の施設入込調査の集計対象となっている場所を中心に 10 か所程度でおこなっています。
- ・ 調査員には大学で観光学を専攻する学生を中心に協力してもらっていて、毎回の調査の質を担保するために、調査員向けに調査マニュアルを作成して決まった手順と方法をとっています。マニュアル中には、例えば旅行者の属性の偏りを軽減するために、団体旅行者には代表者 1 名に回答を依頼する等の対応をとっています。